

いわみざわの民話

第6回

いわみざわの民話は、平成9年に「いわみざわの民話」刊行委員会が発行しました。

親子狐物語

マチのどまん中の4条通りも、そのころはまだ家屋もポツンポツンとあった程度で、あたりはひどい草叢であったということである。だからある店の主人が、ぼんやりからだ横たえて広く土間の店先をみていると、1メートルもあるうかと思われる青大将が、によつきり鎌首をもたげて、こちらをにらんでいることもあったというのである。

そのころはまた幽霊話もあった。むかし女学校通りといわれた4丁目縦小路は、ほんの歩く程度の道であったが、この通りを得体の知れない白装束の女性がひとり、髪をふりみだしてすたすたと歩いてくるのをみたとか、みないとか、怪奇な話が入りみだれて、ひらける以前のむかしは、わかりかねることも多かったようである。

このころで昔はどいでもよくあった狐の話は、ここでは親子狐ということになっている。マチはずれの一軒家は夜のひとり歩きは禁物で、ある夜などは、すぐそこにわが家を見ておりながら、騙されてぐるぐる回りをし、どうしても家に着くことは、できなかったというのである。

これは当時のゴンスケじいさんの話であるが、そのときには、どうも臭いぞと思つたら、わが身をつねってみよ、あごの下をなでてみよ、そうしてひょいと振り返ってみることだ、といっている。このゴンスケじいさんは、わしはよくそうやったものだが、振り返るとかならず可愛い子狐が後方で、きちんとお坐りしているのを見る、ということだった。子狐はコンチャンといつてほんとうに可愛いやつだったと繰り返していつている。

コンコン子狐
えらいぞや
だますばかりが

能じゃない
子狐コンコン
えらいぞや

その瞬間、魔術がとけて、わしは急からだの自由を取り返したものだ。だがわしは、わしの前方でわしを操っている親狐がいたに違いないのに、ただの一度だつてそれを見たことがない。それでも子狐はわしの味方のよう、わしは親狐を憎んでも、子狐は可愛くてしょうがなかった、といっている。

不思議な親子狐の話は、ゴンスケじいさんには、ひとつの意味をもっているようだ。大人は、ずるい。子どもは無邪気だ、たとえ知恵のない獣の世界でも、そういうものだといっているようだ。このことはマチの中でも評判高い話である。

第7回は「妻恋物語」を紹介しします。

発行・編集 岩見沢市総務部市民活動課

ひとの動き 平成22年7月31日現在

●住民基本台帳	人口	総数 90,457人 (前月比 +2)
	男	42,511人 (前月比 +14)
	女	47,946人 (前月比 -12)
	世帯数	42,414世帯 (前月比 +36)

岩見沢市役所

☎ 068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号
 ☎ 0126-23-4111 ㊚ 0126-23-9977
 ホームページ <http://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp>
 ▶救急当番医ガイド ☎ 0126-23-5153
 ▶消防テレホンガイド ☎ 0126-24-0119

この広報紙は道産間伐材配合紙を使用しています。